

個性派漫画家をキャラクターとともに追悼 故 赤塚不二夫 葬儀・告別式



日時・2008年8月7日(木) 10時30分～12時30分
場所・宝仙寺大師堂(東京都中野区)

故人名・赤塚不二夫(漫画家)
2008年8月2日死去(72歳)
式形態・仏式焼香方式(真宗大谷派)
祭壇形式・生花祭壇

会葬者数・約1,200人(通夜約1,200人)
主催者・フジオ・プロダクション
施行業者・東京葬祭(東京都江戸川区)
生花業者・東京花壇(東京都江戸川区)

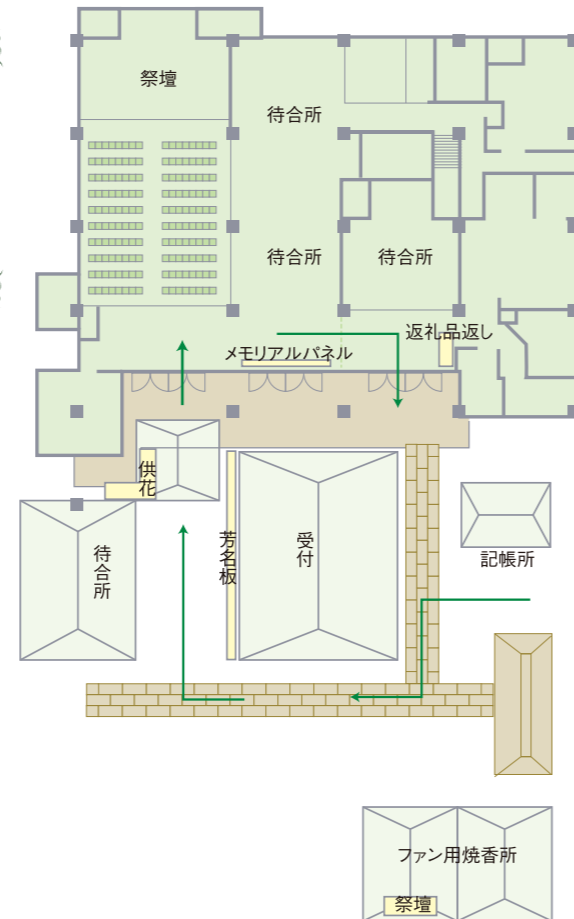


白ギクの3段スロープ祭壇。間口は4間半。スロープ上の漫画キャラクターは、そのまわりにカーネーションの花弁(3,200個)を敷き詰めている



会葬札状にはサイン入りのカードが同封された

- 祭壇データ
- 祭壇サイズ
間口18.1×高さ3.3×奥行2.5m
 - 使用花材
カーネーション3,200本/キク(白)2,500本/コチョウラン20本
 - 遺影サイズ
幅0.9×1.2m
 - 制作時間
10人で8時間



故人の遺影まわりに、人気キャラクターたちを張りつけたメモリアルパネル



ファンのための焼香所とその祭壇。通夜と葬儀・告別式を合わせ約1,200人のファンが集まり故人に哀悼の意を捧げた。BGMに、テレビアニメ「おそ松くん」「天才バカボン」などのテーマソングが流れた



故人との縁の深さから、1人目の弔辞となった森田一義(タモリ)氏(代表撮影)



出棺時には、関係者とともに最後まで残ったファンが見送った



会場となった宝仙寺(門標は、幅1.2×高さ3.9m)



受付は「一般・親戚」と「会社関係」に区別された

「天才バカボン」や「おそ松くん」などのギャグ漫画で知られる漫画家の故赤塚不二夫氏の葬儀・告別式が、08年8月7日、宝仙寺(東京都中野区)でとり行なわれた。

1935年(昭和10年)生まれの故人は、1956年に漫画家としてデビュー。数々のギャグ漫画を世に送り出し続け、故人が生み出した特異なキャラクターたちが繰り広げるギャグは、世代を超えた幅広い支持を得て、戦後を代表する漫画家の1人として活躍した。2002年、検査入院中に脳内出血を起こして倒れ、創作活動を停止。長い闘病生活の後、帰らぬ人となった。

葬儀・告別式では、漫画家・藤子不二雄A氏が葬儀委員長を、故人の長女・赤塚りえ子氏が喪主を務めた。

主催者側から施行を担当した東京葬祭へは、「一般のファンにもお別れができる会場づくりをしてほしい」との要望があり、山門横に仮設テントでファンのための祭壇と焼香

所が設けられた。

祭壇は間口8.1mのキク3段スロープで、スロープ上には「バカボンのパパ」や「イヤミ」など8種類の漫画キャラクターが配された。また、場内ロビーに展示された思い出パネルにも遺影とともにキャラクターが飾られた。

開式の辞、読経に続いて弔辞では、森田一義(タモリ)氏が「私もあなたの数多くの作品の1つです」と、故人に見出されて芸能界へ進んだ森田の感謝の気持ちを込めたメッセージを送った。また、小学館社長・相賀昌宏氏や漫画家仲間からも、故人との思い出を交えた弔辞が捧げられ、別れを惜しんだ。寄せられた弔電は、漫画家仲間や出版関係者など約300通にのぼった。

出棺時には、テレビアニメ「天才バカボン」のテーマソングが流れ、ギャグ漫画家として一世を風靡した故人の最後にふさわしいお別れとなった。

式次第

- 10:28 開式の辞
- 10:29 導師入場(真宗大谷派専念寺)
- 10:30 読経
- 10:37 弔辞
森田一義
小学館社長 相賀昌宏
北見けんいち
古谷三敏
高井研一郎
藤子不二雄●葬儀委員長)
- 11:04 弔電拝読
- 11:10 焼香
- 11:50 導師退場
- 11:51 お別れの儀
- 12:14 喪主あいさつ(長女 赤塚りえ子)
- 12:15 出棺～落合斎場へ